

教員集団で高め合う授業反省会

1 授業反省会の目的

- 最初に立てた目標やそれに基づく計画、実際に行った授業を分析することで、授業の改善を繰り返し行うために行います。
- 具体的な授業の事実を検討することによって、授業者の成長を支援します。さらには、多様な見方や考え方を出し合い、すり合わせ共有し合うことで、参加者の成長も促すことにつながります。反省会は、授業者、参加者相互の成長のために行います。

2 みんなが参加する授業反省会

○ 参加者全員が意見を出し合う授業反省会

最近、付箋紙を用いたワークショップ型の手法を導入している学校が増えています。授業反省会には様々な方法がありますが、例として、ワークショップ型研修を紹介します。

ワークショップとは、学びや創造、問題解決やトレーニングの手法です。参加者が自発的に作業や発言を行える環境を整え、ファシリテーターを中心に運営されます。具体的には、KJ法、マトリクス法等が挙げられます。よさとして、次のようなことが挙げられます。

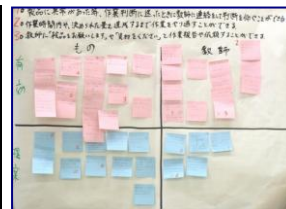
- ・全員が参加し、成就感を生む協議となります。
- ・授業をより多面的に分析できます。
- ・成果と課題が明確になります。
- ・授業者自身の授業改善につながります。



○ 協議を深めるためのファシリテーション

ファシリテーションとは、「中立な立場で、チームのプロセスを管理し、チームワークを引き出し、そのチームの成果が最大になるように支援すること」です。話し合いをうまく活性化するためには、様々な方法がありますが、例として次のプロセスを示します。

- ① 授業反省会を始める前に、目的、授業分析の視点（論点）、進め方や時間配分を考え、メンバーに伝え、共有します。
- ② 意見を出しやすい雰囲気づくりをし、論点に沿って協議を進めます。
- ③ メンバーの意見や意見以外のメッセージ（表情、態度、声など）をしっかり受け止め、込められた意味や思いを引き出します。
- ④ ホワイトボードや模造紙などを利用（可視化）し、話し合いの過程で常に協議内容が共有できるようにします。
- ⑤ 話し合いの中から浮かび上がってきた共通点や相違点を整理します。
- ⑥ 意見をまとめ、授業者の意思決定の確認をします。



(可視化の一例)

[あすなるホームページ「授業反省会の方法」参照](#)

○ 相互に高め合うための発言の仕方

次のような発言をすることで、授業者の意図を尊重した協議につながっていきます。

- ・ 授業者の意図を肯定して語る。
- ・ 建設的に語る。
- ・ 授業での事実を挙げて論理的に語る。
- ・ 授業者に敬意を表した言葉で語る。

編集・発行 静岡県総合教育センター 授業づくり支援課 特別支援班



〒436-0294 静岡県掛川市富部456番地
TEL 0537-24-9736 FAX 0537-24-9727
ホームページ [静岡県総合教育センター](#) [検索](#)